

# 国際融合文化学会

International Society for Harmony & Combination of Cultures

ISHCC ニュースレター 第11号 (2005.6.12)

モットー：全ての生あるものがその「生」を享受し全うしうる調和を創造すること

## 国際融合文化学会 (ISHCC) 第八回国内大会 (東京・市ヶ谷) の報告

ISHCC 第八回国内大会が、3月26日(土)(11:00~18:00)と3月27日(日)(9:50~17:00)の両日にわたり、東京・市ヶ谷の日本大学会館 204 会議室に於いて開催されました。26日は国際融合文化学会副会長の片山博氏、27日は国際融合文化学会副会長の木佐貫洋氏の司会進行により、温かい和やかな雰囲気の中で講演・発表・質疑応答がなされ、盛況の内に終了しました。以下、その内容をご報告いたします。

まず、第一日目は、国際融合文化学会会長の上田邦義氏による基調講演で始まりました。

### 上田邦義会長による基調講演：「研究・教育の目的について」(要旨)

愛知万博は自然の叡知、自然との共生がテーマで、当学会のテーマと共通する。当学会設立の意図は、物事の優劣の意識や概念を含む比較文化・比較文学の時代は終わり、これからは比較よりはすべての文化を尊重してその調和と融合を図ることをテーマにする、ということだった。

21世紀は環境が最大の課題の一つである。戦争は人為的な環境破壊であり、人類はいまだに戦争を続けている。



最近、『日経新聞』連載の「やさしい経済学 21世紀と資本主義」を愛読している。その中のニューヨーク大学佐藤隆三教授による「市場と伝統の融合」の内容を紹介したい。

米国は独立以来200年以上の試行錯誤を経て自分の国に合ったルール、米国流資本主義を整えた。それが米国主導の市場経済体制である。一方、日本を見ると、表面的に米国の模倣をしようとする。それは資本主義の弱肉強食の側面を助長しかねない。日本の本来の美質を失わせる危険すらある。globalizationは形を変えた植民地政策ではないかという主張がある。資本主義の将来はglobalizationの恩恵が世界の隅々にまで及ぶかどうかにかかっているのではないか。

佐藤隆三教授の結論は、他の国の模倣ではなくて、それぞれの国の伝統的な美質と資本主義の長所がいかに融合し得るか、資本主義の未来はそこにかかっている、ということである。

昨日修士課程の修了式があったが、せっかく取得した修士の資格を思う存分に活かしてほしい。就職はもちろん、資格を生かして平和のために働くということもあり得る。それから、忘れがちな大事なことは、学問と自分の身近な人との関係である。自分の学問のために身近な人を犠牲にしていることがないだろうか？自分の研究が身近な人の幸せにもつながる、そういうつながりが大事ではないか。自分の研究が自分の喜びであるとともに、周りの人の幸せにもつながる、できれば、それが社会、日本・世界全体に広がるという、そういう研究をしたいと思う。

その素晴らしい例として、昨日の修了式での片山先生のスピーチを紹介したい。家に帰ったら真っ先に、奥さんに「学位記には自分の名前しかないが、本当は君の名前もあるべきだ。君が協力してくれたから修了できた」と言ってほしい、という内容で、実演して見せられた。自分の幸せだけでなく周りの人もよろこぶ研究が本当の研究だと思う。R. H. Blyth 先生は、芭蕉について、素晴らしい作品をたくさん書いたが、芭蕉にとっては素晴らしい生き方の方がもっと大事だった、といている。私も、できればそうありたいと思う。皆さんはどう思われますか。

「愛する」というときに、テレビでも映画でもよく「君が必要なんだ」と言うが、必要というのは自分のために必要ということであり、自分のエゴであって、必要=愛している、というのは間違いではないだろうか。

幸せとは、何かを手に入れることではない。むしろ手に入れたもの、今持っているものを大事にすることではないか。どうやって守るか、それを生かすか、それが人生の喜びである。

最近の『朝日新聞』日曜版に日野原重明先生のエッセイが載っている。日野原先生は、世界に禅を紹介した鈴木大拙氏のホームドクターだった。日野原先生は、医学は科学だけでは十分ではない、それだけでは患者は癒されない、と言っている。日野原先生は、「目標を持つことが人生を強くします」という見出しで、「毎日が目標に満ちている。小さな目標があればそれに向かって頑張れる。目標、生きがいは、免疫力を上げて強く生きるための源になる。良い生活習慣を保つこと、それも生きる力の一つです。若い人と触れ合うことで新しい考え方を摂取することも良い生活習慣です」と言っている。結論として、日々目標を作ってお互いに良い人生を送りましょう、と。

これからの二日間、思っていることを率直に発表してほしい。お互いに素晴らしい生き方・考え方を share できるようにしたい。非難は価値がない。批判は人を傷つける。素晴らしさを褒め称えることはお互いにとって幸せであり、世界をより住みよくする。世界をより住みよくするためにほんのわずかでも貢献できればと思う。人生の最後に、「私の人生は素晴らしかった。人類の進化にほんの少しでも貢献できた」とも思えれば、大往生できるのではないか。

(要約および文責：編集委員・島崎浩)

その後、一人 20 分の持ち時間で、一日目 9 名、二日目 4 名の研究が発表され、各発表後に 5 分以内の質疑応答が行なわれました。

大会二日目、3月27日(日)の研究発表終了後、筑波大学人文社会科学部教授、同大学文芸言語学系長、日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程講師の荒木正純氏により、特別講演「文学・文化の＜移動＞とその諸問題」が行なわれました。

二日間にわたる発表と講演が終了した後、上田会長による総評が行なわれ、閉会しました。

## 上田会長による総評

秋山先生が一昨日、修了生へのお祝いのことばとして、三つの大事なことを挙げられた。

1 情熱 2 愛 3 忍耐強さ である。二日間の皆さんの発表で色々なことを学び、考えさせられた。今まで通りのことを続けるだけでは十分でない。21世紀は進化の時代である。マンネリになってはいけぬ。進化したい。私が創作した『能・人形の家』のテーマは進化である。女性解放ということではなくて人類の

意識の変革を考えて書いた。8月9日・10日に東中野の梅若能楽学院で公演され、その後、ノルウェー・スウェーデン・ロンドンで公演される。充実した二日間であった。

(要約および文責：編集委員・島崎浩)

## 瀬在幸安日本大学総長・当学会名誉会長がお見えになりました

### 『英語能 ハムレット』軽井沢リハーサル公演の詳細報告

前号第10号で概略をお知らせいたしました英語能公演につきまして、詳細を再度ご報告いたします。

#### 『英語能 ハムレット』リハーサル公演

2004年8月8日、午後3時より、日本大学軽井沢研修所講堂において『英語能 ハムレット』の公演が行われました。

前日の7日から上田ゼミ・国際融合文化学会有志が集まって研修所講堂に手作りの舞台を設営し、むかえた当日は、瀬在幸安総長はじめ教職員、学生それに観光客のかたがたが観客としてお見えになりました。

公演スタッフ・出演は以下のとおりです。公演内容は学会URLをご覧ください。

作・演出 上田邦義教授

シテ ハムレット 上田邦義

ツレ オフィーリア 杉澤陽子

後見 畑江美佳

囃子 小鼓 板倉元子

笛 玉置知彦

地謡 和田絃 田口裕基 安田保 島崎浩 井上泰 山本勝久

《司会》 毛利雅子

(報告：山本勝久)

## 畑江美佳氏にロバート・F・ケネディ奨学金

本学会会員の畑江美佳氏は、日本大学大学院総合社会情報研究科博士前期課程で毎年ただ一名に授与される日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金の平成16年度受賞者に選ばれ、その授与式が軽井沢研修所講堂において、瀬在総長臨席のもと、『英語能・ハムレット』公演に先立って行われました。畑江さん、オメデトウございます。

## Marcus Grandon 氏の video 作品が第26回 Telly Awards を受賞!

ISHCC 副会長 Marcus Grandon 氏が製作されました video "Checks and Imbalances"が第26回 Telly Awards の3部門を受賞しましたことをご報告いたします。

Grandon 氏の作品は、Grand Marquee Productions のHPでご覧いただけます。[www.grandmarquee.net](http://www.grandmarquee.net)

June 1, 2005, SHIZUOKA, JAPAN - Grand Marquee Productions is thrilled to announce that it has been awarded recognition by the judges of the 26th Annual Telly Awards.

The video "Checks and Imbalances" by Marcus Grandon (AKAKU TV Producer, Maui, Hawaii) with

---

国際融合文化学会(ISHCC)問い合わせ先: 上田邦義([ueda@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:ueda@gssc.nihon-u.ac.jp)) 編集委員代表: 島崎 浩・田口裕基

soundtrack by the band Fire Temple was awarded 3 Bronze Telly Awards each in different categories, including one for editing.

"It is a tremendous honor to have been selected by the judges as a winner of the Bronze Tellys", said Grandon. "We are extremely delighted to have won such an esteemed award. We continually strive to learn as much as possible so that we can produce video to the best of our ability. That we won 3 certainly goes a long way in revealing to us that we are on the right path."

The Telly Awards is the premier award honoring outstanding local, regional and cable TV commercials and programs, as well as the finest video and film productions.

The Telly Awards annually showcases the best work of the most respected advertising agencies, productions companies, television stations, cable operator and corporate video departments in the world. It is a highly known and respected national and international competition and each year receives over 10,000 entries from more than 30 countries. Entries do not compete directly against each other. Rather, they compete against a high standard of excellence. When you consider that entrants submit only their very best work as well as the extremely high number of entrants, earning a Telly Award is a significant creative achievement. Historically, the Bronze Telly Award winners represent the top 20% of entrants. It is a tremendous accomplishment to be selected for recognition. For more info see [www.tellyawards.com](http://www.tellyawards.com)  
e-mail : [marcusgrandon@mac.com](mailto:marcusgrandon@mac.com)

## Björk (ビョーク) の新作映画に上田会長が協力

学会誌『融合文化研究』第5号の「編集後記」にも見えるように、数ヶ月前、上田会長のところに、アイスランドの歌手で女優のBjörkから、謡曲制作の依頼があって、英詩を日本語の謡曲にされたとのこと。すでに録音も済み、ニューヨークで新作映画のために編集され、金沢21世紀美術館で7月にオープンされる予定という。映画館で上映される商業ベースのものではないという。

なお数年前、ビョーク主演の映画 *Dancer in the Dark* はカンヌ映画祭で最優秀作品に与えられるグランプリ(パルムドール賞)を受賞、彼女は主演女優賞をうけている。また、昨年のアテネ・オリンピックの開会式でも歌った。わが国にも大勢の熱烈なファンがいるが、欧米では「平和のメッセンジャー」として知られる特異な歌手とのこと。

嬉しいことに、上田会長への最初のメールによれば、会長やISHCCのホームページや学会誌『融合文化研究』の英語ページを読まれ、昨年12月公演の『能・ハムレット』のことを知って、依頼が来たものという。

これは素晴らしいビッグ・ニュースではないか。

### < 速報 (メール版の再録) >

## ISHCC 第一回国際大会 (英国) を開催予定!

上田会長翻案の『能・人形の家』が、本年度の文化庁の国際文化交流プログラムの一つに選定され、8月下旬から9月上旬にかけて北欧と英国で上演されることになりました。上田会長も能役者、俳優さんたちと共に欧州に出かけられます。

( 詳しくは上田会長 [ueda@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:ueda@gssc.nihon-u.ac.jp) にお問い合わせください。 )

そこで、上田会長が訪欧されるこの機会を利用して、ISHCC の国際大会を開催することにいたしました。現在、下記、英国・オックスフォードでの開催を第一案に、日程等を調整しております。

第一回国際大会開催案 ( 詳細は調整中 )

日程： 2005年9月4日(日)

場所： 英国・オックスフォード

( 詳細は事務局 ( 菊地 [2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp) または  
安田 [2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp) ) までお問い合わせください。以下同様。 )

---

## 第九回国内大会及び『英語能ハムレット』公演(熱海)開催予定!

お陰様で当学会も会員が増え続けており、本年度は秋にも国内大会を設けて、発表の機会を増やしたいと考えております。恒例の英語能公演と合わせて、11月の熱海開催を予定しております。

第九回国内大会 / 『英語能ハムレット』公演開催案 ( 詳細は調整中 )

日程： 2005年11月12, 13日(土,日)

12日 国内大会 / 13日 能公演

場所： 熱海 MOA 美術館 瑞雲会館 / 能楽堂

---

## 第十回国内大会(市ヶ谷)開催予定!

本年度も、恒例の三月の市ヶ谷大会開催を予定しております。

第十回国内大会開催案 ( 詳細は調整中 )

日程： 2006年3月26, 27日(日,月)

場所： 東京・市ヶ谷 日本大学会館 204会議室(予定)

---

上記、各具体的な予定や変更等は、今後、ISHCC ホームページ(下記)で案内していきますので、関心のある方は時折ホームページをご確認ください。

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/index.html>

また、事務局(代表として、菊地 [2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp)、  
安田 [2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp)) へのお問い合わせも随時受け付けています。

安田保 (YASUDA Tamotsu)

国際融合文化学会 事務局長代行

日本大学大学院 総合社会情報研究科 研究生

e-Mail: [2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp](mailto:2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp)

学会 URL: <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

## 国際融合文化学会役員名簿 2005 年度

### 《名誉会長》

瀬在 幸安 日本大学総長

### 《顧問》

秋 山 正 幸 日本大学常務理事 福 田 陸太郎 東京教育大学名誉教授

岡 本 靖 正 東京学芸大学前学長 日江井 榮二郎 明星大学前学長

Dorjintseren, Badam-Ochiryn モンゴル大統領外交顧問

### 《参与》

加藤 義喜 池田 憲彦

### 《名誉会員》

Dorj Daicha Adiya Yumdal 観世 榮夫 津村 禮次郎 野村 万作

毛利 三彌 田口 和夫 奥村富久子 山波 言太郎

### 《会長》

上田 邦義

### 《副会長》

片山 博 寺崎 隆行 Marcus Grandon

### 《運営委員》

荒木 正純 伊藤 隆 岡田 恒雄 小田切文洋 河嶋 孝 後藤 隆浩

高山 茂 田原 洋樹 永岡 健右 長谷川啓之 藤澤 全 前田 禮子

真邊 一近 南 隆太 宮本 晃 山田 正雄

### 《学会誌編集審査委員》

上田 邦義 小田切文洋 片山 博 後藤 隆浩 竹野 一雄 竹村 茂

田原 洋樹 永岡 健右 藤澤 全 山田 正雄 John Thomas Dorsey

Marcus Grandon

### 《事務局長》

菊地 善太

### 《事務局長代行》

安田 保 (兼会計委員)

### 《事務局長代行代理》

島崎 浩 (兼会報担当・会計委員)

### 《事務局次長》

木佐貫 洋 (総務担当) 竹内 正人 (総務担当) 竹村 茂 (出版・WEB 担当)

棚田 茂 (総務担当)

### 《会計監査》

渡辺 直

### 《会計委員》

畑江 美佳 (兼実行委員)

若尾 明余

### 《実行委員》

戸村 知子 (企画・広報担当) 宮西 直子 (企画・広報担当) 田口 裕基 (会報担当)

石田 雅章 伊藤 順子 稲垣 明子 遠藤 英昭 岡本由実子 小原 伸明

笠井 洋幸 金 英子 城 保江 杉澤 陽子 高木 左右 田村 弘子

星野 裕子 山本 勝久

## ホームページのご案内

当会のホームページも是非ご覧ください。担当：事務局次長 竹村茂  
( <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~SHCC/index.html> )

## ホームページ運営スタッフ募集のお知らせ

現在、ホームページにおいて会員の皆様の情報を交換する掲示板の設置を進めております。それに伴い、ホームページの運営を手伝っていただけるスタッフを募集しております。どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

## 『融合文化研究』への寄稿募集

皆様からの学会誌『融合文化研究』への寄稿もお待ちしております。なお、第5号分につきましては締め切りしました。次号(第6号)の締め切りは、7月末日の予定です。原稿提出の手順はHPをご参照下さい。  
( <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~SHCC/wanted4/index.htm> )

## 終身会員のご報告

2004年度と2005年度の現在までに、下記の方々が終身会費を納められ終身会員になりました。この場を借りてご報告申し上げます。有難うございます。

2004年度に終身会員となっただきましたのは、下記の方々です。

第27号 小沼高之氏、 第28号 岡田恒雄氏、 第29号 伊藤隆氏、 第30号 金井治氏  
第31号 伊藤順子氏

2005年度はこれまでに次の方々に終身会員となっただきました。

第32号 石田雅章氏、 第33号 金英子氏、 第34号 竹村茂氏

## 会費のご納入について

ご協力いただける方は、下記の郵貯口座へのお振込みをお願い申し上げます。

口座番号：00120-1-550305 口座名義：ISHCC

年会費 一般会員：3,000円、学生会員：2,000円

或いは、終身会員：30,000円(次年度以降、会費支払い免除)

## 編集後記

今回は、第八回国内大会の報告、昨年8月の軽井沢におけるシェイクスピア能公演の詳細の報告、畑江美佳氏の口バート・F・ケネディ奨学金の受賞報告、Marcus Grandon氏のvideo作品のTelly Awards受賞報告、歌手で女優のBjörkから上田会長への謡曲制作の依頼、速報(メール版の再録)、事務局からのご連絡、等を掲載いたしました。いずれ会員個人の活動報告も掲載させていただく予定です。

未来志向の文化の調和と融合という視点から、構成・内容等をより良いものにするために、ご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

『ニューズレター』第11号編集委員代表 島崎 浩・田口裕基